

2007年4月2日

## 2007年度新入社員に対する挨拶（要旨）

社長 米倉 弘昌

当社グループはこの4月から「グローバルカンパニーとしての飛躍を目指して、株主の期待する事業付加価値を生み出す高収益体質を確立・堅持し、持続する成長力を確保する」ことを基本方針とした、新しい中期経営計画をスタートさせた。最優先の課題は、サウジ・アラムコ社と進めている世界最大級の石油精製・石油化学コンビナートを建設する「ラービグ計画」をスケジュールどおりに完成させることである。この計画の完成により、当社のグローバル化は飛躍的に進展し、従前に比べて一段上の舞台で世界規模の事業展開を行うこととなる。また、その他の中核事業についても一層の競争力の強化を図っていく。これらにより、最終年度の2009年度において売上高2兆4,000億円、純利益1,500億円を目指す。グローバル化の進展に伴い、皆さんには、3つのことを望みたい。

### 「社会から信頼される人」になること

当社の諸先輩は、住友の事業精神「信用を重んじ確実を旨とする」を尊重し、地道に社会からの信頼を培ってこられた。そうした努力があって、現在、当社は国内外で事業拡大を進めることができるのであり、今後もその信頼を大切にしていかなければならない。一人ひとりがしっかりとした遵法精神と高い倫理観を持ち、何事においても、**正直でかつ誠実に行動**されることをお願いしたい。

### 企業の社会的責任を果たすこと

世界市場でのプレゼンスが強化されれば、グローバルカンパニーとして、経済・環境・社会の全ての面でバランスのとれた活動を行うことがますます重要となる。当社には事業は自ら利益を得るものであるとともに、社会に対しても利益あるものでなければならない、という住友の事業精神が脈々と流れている。**企業としての社会的責任を果たすこと**の重要性を十分認識して、行動していただきたい。

### 「世界に通用するプロフェッショナル」になること

グローバルな事業展開に伴い、異なる文化・価値観をもついろいろな国や地域の人々と仕事をする機会が多くなる。一人ひとりが世界に通用するプロフェッショナルであることが求められ、語学力はもちろんのこと、広い視野を持ち、相手国の文化を理解、尊重しつつ、自らの立場を主張できる国際感覚が必要となる。若いうちから**真のコミュニケーション能力、国際感覚を磨く努力**をしていただきたい。

以上

#### [ご参考]

入社式 : 本社（東京）にて 10時00分から  
新入社員数 : 112名